

大流之事 大流は、貴人酒をのみのこし給ひて、銚子の中に打込給ふを、右のごとく土器をわたりにのせて、御酌持參いたす也、此時は、土器をいたゞかすして、御酒をうけて後いたゞき、吞立にすべし。○中略

御通り之事 御通りといふは、貴人の御酌にて、壹人々々づ、被召出、御酒をつぎ被下を、盃をいたゞかすして、御酒をいたゞき、吞盃を御前に置罷立也、

〔年中例式傳〕當江戸柳營年始式中、御通ニ成ト云有、古法躰之名目、御通ト云有是ハ御通ト唱、主人酌テ被下云也、又柳營御通有者御通ト唱、大流事也、銚子渡ニ土器ヲ乘、兩人相并ビ持出ル時、兩人宛罷出頂戴致ス也、又外ニ兩人銚子ヲ持、渡ニ盃ヲ乘持出ル、互ニ兩人宛行違々々酌ヲ致、是ヲ千鳥掛ト云也、盃ヲ戴所ハ同所也、古法文字同シテ唱替リ、品モ替レリ、今御通リハ古御流之事也、

〔柳營秘鑑〕五享保年中行事之略 正月○中略元日御規式之次第

一 御白書院公方樣 御出御、大納言樣 御出御、御先立御 御上段御著座、尾張

中納言殿、紀伊中納言殿、水戸宰相殿、松平加賀守、松平相摸守、松平兵部大輔、松平越後守、右御

三家方順々被出座、御太刀目録、老中披露之、直ニ御下段御右之方に著座、松平加賀守同斷、其餘

相摸守以下壹人宛出座、銘々御太刀目録持參之、御敷居之内にて御禮、但侍從ハ、御太刀目録ハ

御禮、則御左之方に著座、各相濟而以後、年頭之御祝儀被申上候段、老中言上有之、御太刀目録奏者

番引之、御盃、御吸物、御捨土器、但御酌加ハ、御三家初著座面々、へ賜之事、御引渡等ハ、兩番頭、右何

も吸物出之、御酌御加御前、江被召上、御加有之、其御盃を三方に載之、上より二疊目に御酌扣有

之時、御三家先官次第一人宛被出席頂戴之、加有之、盃を持御次之間へ被退時、老中取之、三方に

載之、御酌、江渡し御前、江被召上之時、中座有之御禮、御加有之、御扣之節、御吳服臺出る、但三疊目